

一 評論 (配点 35)

問一

- (1) 解答番号 **1** 正答⑥ (配点 3) 正しい表記は「心理」。従って(c)「心痛」と(b)「受理」の組合せが正解。
(2) 解答番号 **2** 正答④ (配点 3) 正しい表記は「可視」。従って(b)「可決」と(c)「座視」の組合せが正解。
(3) 解答番号 **3** 正答① (配点 3) 正しい表記は「紙片」。従って(a)「白紙」と(b)「片言」の組合せが正解。
(4) 解答番号 **4** 正答⑤ (配点 3) 正しい表記は「信号」。従って(c)「過信」と(a)「雅号」の組合せが正解。

問二 解答番号 **5** 正答② (配点 4) 傍線Aは、「言語の意味の区分は恣意的である」「言語が違えば世界が違って見える」という仮説(「言語相対主義」)を立証するために行った調査の結果についての筆者の感想が副詞句として述べられている部分。論旨としては「驚いたことに」で十分だが、筆者は次の段落以降の、「バーリンとケイの研究成果に関して、ややフライングぎみに「当たり前というべきか」と修飾句を重ねているのである。

問三 記述問題 **1** (配点 8) 設問に解答の骨子は明確に示されている。解答例は『各言語における色の名前の違いを比較し、「言語が違えば世界が違って見える」ことを立証しようとする研究。』(50字)

問四 記述問題 **II** (配点 8) 傍線部直後の内容のまとめだけでなく、色の名前を比較するという方法論の根拠にも触れる必要がある。解答例は『人間の側が恣意的に行ったものではなく、人間の生物学的な構造に大きく依存している。』(38字)

問五 解答番号 **6** 正答③ (配点 3) 仮説としての言語相対主義を証明するために、各言語の「色の名前」を調査した結果を筆者が要約している部分。色の違いは物理学的には波長の違いによってもたらされるので、ある色と別の色の違いには(何nmく何nmまでの波長を「赤」とするというような国際基準を設けない以上)物理学的な必然性がない(つまり恣意的ではある)が、実際色を認識するのは錐体細胞であることから、生物学的には必然性があるといえる、という趣旨。

二 小説 (配点 35)

問一 記述問題Ⅲ 「配点 8」傍線部直前の「特に最近く違いない。」の一文の内容をまとめればよいが、字数の関係から、適切な取捨選択及び言い換えが求められる。解答例は『金銭面で人の足下を見るような講演依頼が増加したと感ずるのは、必ずしも誤った見方ではないと断じている、ということ。』(56字)

問二

- (1) 解答番号 7 正答④ 「配点 3」正しい表記は「重宝」。従って(b) 「慎重」と(c) 「至宝」の組合せが正解。
- (2) 解答番号 8 正答⑥ 「配点 3」正しい表記は「更新」。従って(c) 「変更」と(b) 「新旧」の組合せが正解。
- (3) 解答番号 9 正答① 「配点 3」正しい表記は「暴利」。従って(a) 「暴挙」と(b) 「私利」の組合せが正解。
- (4) 解答番号 10 正答④ 「配点 3」正しい表記は「間髪」。従って(b) 「間隔」と(c) 「頭髮」の組合せが正解。
- (5) 解答番号 11 正答② 「配点 3」正しい表記は「駄目」。従って(a) 「駄賃」と(c) 「木目」の組合せが正解。

問三 解答番号 12 正答⑤ 「配点 4」依頼を断る場合、テーマが気に入らないか講演料に不満があるかのどちらかあるいは両方であるが、儀助としてはテーマに関しては全く問題がないことをまずは先方に強調しておきたい。勿論「謝礼が少くても来てくれる筈」と思われてしまう危惧はあるが、テーマに不満があつて断つたと取られた場合、「講演料二十万円(の価値がある存在)」という自分自身の誇りは守られない。

問四 記述問題Ⅳ 「配点 8」「つけて然るべき」は「つけるのが当然な」の意。そのテーマに最もふさわしい講師である自分が二十万円程度の講師料で呼べるのだということを強調したい心理が現れている。解答例は『そのテーマに最もふさわしい講師への謝礼が二十万円であることなど破格のことである、ということ。』(46字)

三 語句・文法（配点30）

問一

- (1) 解答番号13 正答③〔配点3〕「糊する」は「粥かゆをすすする」こと。「口を糊する」全体で「やっと暮らしを立てている」さまを言う。
- (2) 解答番号14 正答①〔配点3〕鬼は元々強いが、持ち慣れた金棒を使えば一層強くなることから生まれた慣用句。
- (3) 解答番号15 正答②〔配点3〕「鼻であしらう」とは「口や手で反応しない」という意味。いかにも相手をばかにした対応のこと。

問二

- (1) 解答番号16 正答⑤〔配点3〕「不確かなことより、目の前の確実な利を優先せよ」の意。「先の千両より今の十両」とも。
- (2) 解答番号17 正答③〔配点3〕「どんなにつまらないものでも、信じている人物には尊いものである」こと。「頭」は「かしら」。
- (3) 解答番号18 正答④〔配点3〕「噂をしているとその人がひよっこり現れる」こと。「影」は「陰」でなく「人影」。

問三

- (1) 解答番号19 正答②〔配点3〕敗れた者が、機会をとらえ「砂埃を巻き上げるように」再度攻め込むこと。出典は杜牧の七言絶句。
- (2) 解答番号20 正答③〔配点3〕「青天」は「青い空」、「白日」は「輝く太陽」のこと。やましい者は必ず闇を好むものである。
- (3) 解答番号21 正答①〔配点3〕四面の漢軍が楚の歌を歌うのを聞き、楚が既に漢に降伏したと思ひ込んだという故事成語。
- (4) 解答番号22 正答⑤〔配点3〕「厚顔」は文字通り「面の皮が厚い」、「無恥」は「恥知らず」の意。「厚顔にして恥無し」と訓読する。

〈記述問題採点基準〉

一 評論

問三 記述問題Ⅰ〔配点8〕

- (1) 言語が異なれば世界が違って見えることを立証するという目的が明示されていて【最大部分点②】
- (2) その方法論が「色の名前の違い」を比較することであることが正しく表現できていて【最大部分点⑥】

問四 記述問題Ⅱ〔配点8〕

- (1) 「人間の生物的な構造に大きく依存する」ことが明示されていて【最大部分点⑤】
- (2) 「色の区別には言語による恣意性が認められる」という仮説が否定されたことに触れ得て【最大部分点③】

二 小説

問一 記述問題Ⅲ〔配点8〕

- (1) 儀助が「金銭面で足下を見られている」ように感じていることに言及して【最大部分点④】
- (2) 「僻みではない」という断じ方の背景には他の講師の講演料の高騰があることに触れ得て【最大部分点④】

問四 記述問題Ⅳ〔配点8〕

- (1) そのテーマには自分の話が最もふさわしいという自負があることに触れ得て【最大部分点④】
- (2) 「たったの」は、「二十万円が安い」という意味ではなく、「二十万円でも安い」ことを強調しようとしていることが把握できていて【最大部分点④】